



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年11月10日

上場会社名 株式会社山田債権回収管理総合事務所 上場取引所 東
 コード番号 4351 URL <http://www.yamada-servicer.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田 晃久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田中 光行 TEL 045 (325) 3933
 四半期報告書提出予定日 2020年11月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	1,215	△24.0	△296	—	△262	—	△266	—
2019年12月期第3四半期	1,598	5.2	△184	—	△114	—	△135	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △242百万円 (—%) 2019年12月期第3四半期 △109百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△62.48	—
2019年12月期第3四半期	△31.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	6,006	2,978	49.6
2019年12月期	6,220	3,263	52.5

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 2,978百万円 2019年12月期 3,263百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,650	23.0	143	—	172	△48.6	82	△85.6	19.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	4,268,000株	2019年12月期	4,268,000株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	8,367株	2019年12月期	8,367株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	4,259,633株	2019年12月期3Q	4,259,633株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく景気、不動産市況、金利、為替動向等の社会・経済動向の変化が含まれます。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2020年1月1日～2020年9月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にありました。感染症拡大の防止策と社会経済活動のレベルを引き上げる対策をバランスよく進めていく難しい舵取りが、今後とも続くこととなります。今後の経済情勢についても引き続き注視していく必要があります。

2020年7月1日時点の基準地価は、全国の全用途平均で3年ぶりの下落になるなど新型コロナウイルス感染症が回復基調にあった地価に冷や水を浴びせた格好です。本年1月1日時点の公示地価と重なる地点で比べると、コロナ禍の影響があった本年1月から7月とそれ以前（昨年7月から12月）では基調が一変しています。引続き不動産価格の動向にも注意が必要です。

2020年1月～9月の新設住宅着工戸数は、約60万8千戸（前年同期比10.9%減）となり、持ち家、貸家とも減少しました。

2020年3月期の全国銀行の金融再生法開示債権残高は6.8兆円で、2019年3月期の6.7兆円と比べ0.1兆円の増加となっています。

東京商工リサーチによる全国企業倒産状況によれば、2020年1月～9月の倒産件数（負債額1,000万円以上）は6,022件（前年同期比2.4%減）うちコロナ関連倒産は480件でした。

このような環境下、当社グループは、「顧客第一主義」を経営理念に掲げ、「不動産・債権の取引のワンストップサービスの提供会社」をビジネスモデルとして、サービサー事業、派遣事業、不動産ソリューション事業を展開してきました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が1,215百万円（前年同期比24.0%減）となり、営業損失は296百万円（前年同期は営業損失184百万円）、経常損失は262百万円（前年同期は経常損失114百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は266百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失135百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①サービサー事業

サービサー事業においては、既存の購入済み債権からの回収が計画よりずれ込んだこと等により、売上高は228百万円（前年同期比20.3%減）、セグメント損失は30百万円（前年同期はセグメント利益15百万円）となりました。

なお買取債権の新規購入は相応の実績がありました。

新型コロナウイルス感染症は債務者の経済基盤、法的手続き、不動産担保処分等に負の影響を及ぼしていますが、定量的計測は現状難しい状況であり、今後注視する必要があります。

②派遣事業

派遣事業においては、売上高は937百万円（前年同期比5.5%減）、セグメント利益は102百万円（前年同期比23.7%減）となりました。

新型コロナウイルス感染症は派遣先の業況に影響をあたえており、時短勤務等を通じて当社事業も影響を受けました。

③不動産ソリューション事業

不動産ソリューション事業においては、相応に新規の底地購入ができたものの、予定していた借地人等との交渉において、新型コロナウイルス感染症の影響により面談ができないケースや、遅延するケースが発生したこと等により、売上高は73百万円（前年同期比78.2%減）、セグメント損失は2百万円（前年同期はセグメント利益17百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、総資産6,006百万円（前連結会計年度末に比べ213百万円減）、株主資本2,856百万円（同308百万円減）となりました。

（流動資産）

当第3四半期連結会計期間末の流動資産の残高は4,791百万円（前連結会計年度末に比べ865百万円増）となりました。これは主に、現金及び預金140百万円の増加、販売用不動産171百万円の増加、買取債権894百万円の増加によるものであります。

（固定資産）

当第3四半期連結会計期間末の固定資産の残高は1,214百万円（前連結会計年度末に比べ1,079百万円減）となりました。これは主に、投資有価証券1,087百万円の減少によるものであります。

（流動負債）

当第3四半期連結会計期間末の流動負債の残高は2,069百万円（前連結会計年度末に比べ26百万円増）となりました。これは主に、短期借入金90百万円の増加によるものであります。

（固定負債）

当第3四半期連結会計期間末の固定負債の残高は958百万円（前連結会計年度末に比べ44百万円増）となりました。これは主に、繰延税金負債11百万円の増加、退職給付に係る負債8百万円の増加、役員退職慰労引当金14百万円の増加によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産の残高は2,978百万円（前連結会計年度末に比べ285百万円減）となりました。これは主に、配当に伴う利益剰余金42百万円の減少、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金266百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症が業績に及ぼす影響に不透明感はあるものの、期末に向けてサービス事業、不動産ソリューション事業において当第3四半期からずれ込んでいる商材を含めて業績を積上げる見込みであり、2020年2月13日発表の「2019年12月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想を変更しておりません。

なお、新型コロナウイルス感染症による業績への影響等により今後業績予想の修正が必要と判断される場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,116,713	1,256,735
売掛金	127,169	107,000
買取債権	2,867,096	3,761,598
販売用不動産	163,610	334,709
仕掛品	1,134	1,297
未収入金	68,978	88,836
未収還付法人税等	266,858	—
その他	86,496	77,189
貸倒引当金	△771,999	△835,448
流動資産合計	3,926,058	4,791,918
固定資産		
有形固定資産	61,235	66,512
無形固定資産	16,850	14,168
投資その他の資産		
投資有価証券	1,985,420	898,025
差入保証金・敷金	150,630	156,418
その他	80,288	79,465
投資その他の資産合計	2,216,339	1,133,908
固定資産合計	2,294,425	1,214,589
資産合計	6,220,483	6,006,507
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,378	170
短期借入金	1,810,000	1,900,000
未払金	93,688	54,552
リース債務	21,518	20,514
未払法人税等	19,164	7,349
預り金	34,942	13,637
賞与引当金	16,400	43,285
役員退職慰労引当金	14,179	—
その他	31,754	30,409
流動負債合計	2,043,027	2,069,917
固定負債		
リース債務	31,243	40,131
繰延税金負債	43,224	54,995
役員退職慰労引当金	589,855	604,330
退職給付に係る負債	214,655	223,636
預り保証金	21,467	22,538
資産除去債務	10,711	10,852
その他	2,751	1,771
固定負債合計	913,909	958,255
負債合計	2,956,937	3,028,173

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,084,500	1,084,500
資本剰余金	806,840	806,840
利益剰余金	1,276,814	968,041
自己株式	△3,167	△3,167
株主資本合計	3,164,987	2,856,214
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	98,559	122,119
その他の包括利益累計額合計	98,559	122,119
非支配株主持分	—	—
純資産合計	3,263,546	2,978,334
負債純資産合計	6,220,483	6,006,507

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	1,598,445	1,215,378
売上原価	1,363,167	1,080,678
売上総利益	235,277	134,699
販売費及び一般管理費	420,000	431,105
営業損失(△)	△184,722	△296,406
営業外収益		
受取利息及び配当金	4,701	5,410
家賃収入	7,604	10,355
投資事業組合利益	63,544	38,746
設備賃貸料	12,698	11,869
その他	6,034	3,809
営業外収益合計	94,582	70,191
営業外費用		
支払利息	6,360	16,495
家賃原価	1,702	1,776
持分法による投資損失	15,606	11,191
その他	198	6,332
営業外費用合計	23,869	35,796
経常損失(△)	△114,009	△262,011
税金等調整前四半期純損失(△)	△114,009	△262,011
法人税、住民税及び事業税	9,779	3,769
法人税等調整額	12,065	396
法人税等合計	21,844	4,165
四半期純損失(△)	△135,853	△266,177
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△135,853	△266,177

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△135,853	△266,177
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,990	23,560
その他の包括利益合計	25,990	23,560
四半期包括利益	△109,863	△242,616
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△109,863	△242,616
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大による影響)

新型コロナウイルス感染症により、今後も営業活動に影響があるものと見込んでおります。ただ、このような状況は、2020年末に向けて徐々に安定化し、2021年には概ね正常化すると仮定し、会計上の見積りを行っております。

なお、この仮定は不確実性が高く、収束遅延により影響が長期化した場合には、将来において当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	サービス事業	派遣事業	不動産ソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	286,654	962,610	339,057	1,588,323	10,122	1,598,445
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	29,909	-	29,909	-	29,909
計	286,654	992,519	339,057	1,618,232	10,122	1,628,354
セグメント利益又は損失(△)	15,173	134,192	17,846	167,212	3,398	170,610

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	-	1,598,445
セグメント間の内部売上高又は振替高	△29,909	-
計	△29,909	1,598,445
セグメント利益又は損失(△)	△355,333	△184,722

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、測量事業・投資事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額の主なものは、全社費用の355,538千円であり、当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2020年1月1日 至2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	サーバー事業	派遣事業	不動産ソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	228,478	912,961	73,938	1,215,378	—	1,215,378
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	24,516	—	24,516	—	24,516
計	228,478	937,477	73,938	1,239,894	—	1,239,894
セグメント利益又は損失 (△)	△30,267	102,330	△2,597	69,465	△3,096	66,369

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	—	1,215,378
セグメント間の内部売上高又は振替高	△24,516	—
計	△24,516	1,215,378
セグメント利益又は損失 (△)	△362,775	△296,406

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、測量事業・投資事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額の主なものは、全社費用の362,901千円であり、当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。